

科目名	民事執行法Ⅱ	
担当者	笹邊 将甫 / SASABE, Masatoshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	<p>民事訴訟において、その存在を認められた「権利」を強制的に実現する手続を規律したものが「民事執行法」であり、私権を実現するためには、「民事執行法」の理解が必要かつ重要となります。本講義では、民事執行法Ⅰに引き続いて、債権執行、非金銭執行、担保執行及び民事保全法について、初学者に分かり易く講義します。</p> <p>なお、民事執行制度の全体像及び不動産執行及び動産執行については、民事執行法Ⅰの講義で取り上げます。したがって、民事執行法ⅠとⅡをセットで受講するようにして下さい。</p>
	到達目標	債権執行、非金銭執行、担保執行及び民事保全制度についての基本原則や用語などの基本的事項に関する知識を獲得する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 民事執行法Ⅰで扱った内容の復習 (2) 債権執行①——金銭債権に対する執行(200-227頁) (3) 債権執行②——少額訴訟債権及び動産の引渡請求権に対する執行(227-230頁) (4) 非金銭執行①——物の引渡し・明渡しの強制執行(235-242頁) (5) 非金銭執行②——作為・不作為及び意思表示の強制執行(242-258頁) (6) 中間テストとその解説 (7) 担保執行①—担保執行と強制執行(259-268頁) (8) 担保執行②——担保不動産競売と収益執行(268-284頁) (9) 担保執行③——動産競売・債権担保執行(285-297頁) (10) 担保執行④——留置権・物上代位(297-308頁) (11) 保全手続①——総説(309-319頁) (12) 保全手続②——保全命令の発令手続(319-338頁) (13) 保全手続③——不服申立手続(339-345頁) (14) 保全手続④——保全執行(345-359頁) (15) 総まとめ(予備日) 	
自学自習	事前学習	<p>上記の授業計画には、その回の講義で扱う部分の教科書の該当頁を示しています。受講者には、該当頁を予め読んでくることを希望します。</p> <p>また、開講時まで、中野貞一郎『民事執行・保全入門』(有斐閣、2010)を読むことをお勧めします。</p>
	事後学習	Moodle上で実施される小テストを毎回受験して、講義内容を復習しておいて下さい。任意提出のレポートを課す予定です。
使用教材・参考文献	<p>【教】中西=中島=八田『民事執行・民事保全法』(有斐閣、2010) ISBN:978-4-641-17907-3</p> <p>【参】古賀編『民事執行・保全判例インデックス』(有斐閣、2010) ISBN:978-4-7857-1701-8</p> <p>※その他の文献については、講義中に適宜紹介していく予定です。</p> <p>なお、講義には、Moodle上で配布されるレジュメを各自で印刷して、毎回持参すること。</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈方法〉小テストの結果(30%)、筆記試験の結果(70%)を総合評価します。</p> <p>〈基準〉総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>※詳細については、初回のガイダンス時に説明します。</p>	
備考	<p>◆六法を毎回持参して下さい。◆小テストやレジュメの配布には、Moodleを利用します。</p> <p>◆民事執行法Ⅰ・Ⅱを併せて履修することが望ましいです。</p> <p>初回のガイダンスには必ず出席して下さい。重要な点について説明を行います。</p>	